



教育実践の質的深まりの手がかりとして ～プラス1の発想をもとに荘原教育実践を考える～

今年度から校内研究を「情報を活用し、表現する力をつける授業づくり」として、国語・社会を重点教科としながら、研究活動を進めることになりました。今学期には研究の枠組みや研究活動の年間計画も定まり、2学期からはいよいよ研究授業を中心とした研究実践活動が活発化することになります。

また、9月12日(月)には、**塩谷京子先生を迎えての校内研修会**が開催できるという幸運にも恵まれました。本校の研究活動に具体的な示唆をいただけると期待しています。

さて、今回は先生方へ、授業実践にかかわるいくつかの情報提供です。

【地域に学ぶ平和学習の実践～6年生社会・総合】

- 終戦時(昭和20年)の小学6年生は、現在82歳。
中学生は85歳と高齢化が深刻に。
- 戦争を時間的・空間的に遠くの事実としないための工夫
～地域と人から直接学ぶ～
- 荘原や斐川町にあった戦争の現実から学ぶ

～**池橋達雄氏、斐川町に残る戦争史跡**～

- 夏季休業中の「聞き取り活動」への発展に期待
～原爆投下の日や終戦記念日に向けて～

【地域で頑張る人との出会い～5年生社会・総合】

【その人①～島根県防災航空隊のみなさん】

- 出雲空港には、島根県防災航空隊(防災ヘリ)で人の命と向き合う人々がいる
- 緊急搬送・救助・火災や災害対応のため県内各地の消防士が駐在し、訓練・救助・点検活動を行っています。



【その人②～前宍道湖漁協組合長 原俊雄さん】

- 前宍道湖漁業組合代表理事組合長(第8代)である原俊雄さんは、荘原の方(新田)で、宍道湖の環境やシジミ漁のことを知り尽くしたプロ漁師です。



【宍道湖流入河川流域である出会い～4年生総合】

【その人～島根環境アドバイザー登録講師】

公益財団法人しまね自然と環境財団は、「しまね環境アドバイザー制度」を設け、講演会・自然観察会等へ講師を無償で派遣しています。新建川の河川環境を水質検査(COD)という科学的手法だけでなく、指標生物の採集観察活動も加えることで、河川を多面的に評価するとともに、児童の川に対する興味関心を高めることにもつながります。申請方法等はHP「エコサポしまね」で検索を!

【新聞活用の便利グッズを紹介します】

新聞活用の魅力的なグッズを紹介します。それは、「**読売ワークシート通信**」です。『読売KODOMO新聞』に掲載された記事と、記事内容に関する設問がセットになったワークシートが各種準備。低学年・中学年・高学年・中学生のジャンル別に準備されています。本校でもすでに登録を済ませ、利用可能になっています。授業の教材として、家庭学習プリントとして活用ができます。